



貝毒原因プランクトン モニタリング調査

貝毒による被害（食中毒）を防ぐため、貝毒の原因となるプランクトンのモニタリング調査を行っています。

貝毒とは？

- アサリやシジミなどの二枚貝は、水中の植物プランクトンを餌としています。
- プランクトンの中には毒をもつ種類があり、それらを二枚貝が摂取すると、毒が貝の体内に蓄積します。
- 毒を蓄積した貝を人が食べると、手足のしびれや麻痺、下痢などの症状が発生することがあり、重症の場合死に至ることもあります。
- 貝が毒を蓄積しているかどうかは外見では判断できず、また、毒は熱に強いいため加熱調理では分解されません。



淀川河口域に生息するヤマトシジミ



貝毒原因プランクトンの1種
アレキサンドリウム・カテネラ
(旧タマレンセ)

貝毒原因プランクトンモニタリング調査

- 春先からプランクトンの発生が収束するまで、淀川河口域において、貝毒の原因となるプランクトンの発生状況をモニタリングしています。
- 調査地点で採取した水をすみやかに持ち帰り、顕微鏡下で貝毒原因プランクトンを計数します。
- モニタリング結果は、大阪府水産課等の関係機関へ通知するほか、府民のみなさまへ向けて研究所HPで迅速に公表しています。
- 貝毒原因プランクトンが注意・警戒密度を超え、貝の毒化が確認された場合、大阪府による漁業者への出荷自主規制の指導や、関係機関により府民に対しアサリ等の採取をしないように啓発が行われます。



淀川河口域での採水



顕微鏡下で貝毒原因プランクトンを計数

モニタリング調査の流れ



貝毒原因プランクトン*の発生傾向（2019）
*アレキサンドリウム・カテネラ（旧タマレンセ）